

財政総論（補足）  
（参考資料）

財務省

2023年5月11日

# 学校を核とした地域力強化プラン

PDCAサイクルの確立

令和5年度予算額77億円  
(令和4年度予算額74億円)

文部科学省

## 事業の概要

学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築し、地域の多様な関係者の参画による地域の特色を活かした教育活動を支援するため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進。

## 指摘に至った背景

事業目的やアクティビティ・アウトカムなどのロジックは、政策目的達成に向けた政策実現経路を適切に示しているものとなっているか。

## 秋のレビュー等における指摘事項

本事業によって具体的に何を達成するのか。「地域の将来を担う子供の育成」及び「地域創生」という目的を整理して、政策効果の発現経路がより明確になるように資するべきである。

事業の効果検証の観点から、必要となるデータを整理の上、データを収集できるよう補助金交付要綱で定めるなど、データ収集の仕組みを構築するべき。

本事業の政策目的達成のために真に必要なかつ効果が期待される取組を支援するとの観点から、見直しを検討すべき。

## 令和5年度予算等への反映

事業目的を「学校・家庭・地域が連携・協働して、自立的・継続的に地域の課題の解決が図られること」に明確化し、最終アウトカムとして設定。これに合わせて、政策効果の発現経路も明確化。

初期・中期・最終アウトカムのそれぞれについて、KPIを設定のうえ自ら効果検証を行うこと、効果検証の基礎としたそれぞれのデータを提出することを補助要件化。

学校における働き方改革の取組状況を公表することを補助要件化した上で、学校・家庭・地域のそれぞれについて課題を類型化し、課題解決に向けた効果的な取組に対して、重点的に補助金を交付する仕組みを導入。

## 今後の活用方針

- 各補助事業者（自治体）は、課題に応じた目標を設定し、事業年度ごとに取組の成果分析を実施。
- 国は、各補助事業者（自治体）の成果を取りまとめ、事業年度ごとに事業全体の成果分析を実施。併せて、全国の好事例及び課題のある事例の共有を通して、各補助事業者（自治体）の事業の改善に繋げる。

## 事業の概要

高齢者、障害者、子育て世帯等の多様な世帯が安心して健康に暮らすことができる住環境（スマートウェルネス住宅）を実現するため、サービス付き高齢者向け住宅やセーフティネット登録住宅の整備、先導的な住環境整備、子育て世帯等のための支援施設等の整備を伴う市街地再開発事業及び子どもの安全・安心に資する共同住宅の整備等に対して支援。

## 指摘に至った背景

本事業はサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の整備の他に、子供の安全・安心に資する共同住宅の整備等の多様な目的を持つ4つの事業（セーフティネット住宅改修事業、人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業、地域生活拠点型再開発事業、子育て支援型共同住宅推進事業）を含むが、サ高住以外には成果検証のための指標設定が無く、その他の事業の検証ができない。

## 秋のレビュー等における指摘事項

サ高住以外の4つの事業について、初期アウトカム指標及び最終アウトカム指標の設定が無く、これらの事業の成果検証ができない。

サ高住事業の最終アウトカム指標が、サ高住以外の高齢者向け住宅整備も含む成果に係る指標となっており、本事業による貢献を図ることが困難。

補助金の要綱において、効果検証を行うために必要な情報の収集等の枠組みが盛り込まれていない。

## 令和5年度予算等への反映

サ高住以外の4つの事業のそれぞれについて、事業の成果を図る初期アウトカム指標及び最終アウトカム指標を設定し、事業の成果検証が可能な仕組みを整える。

サ高住事業の最終アウトカム指標を、本事業の直接の成果であるサ高住の整備がどの程度高齢者向けの住まい確保に貢献したかを測るため、最終アウトカム指標を見直す。

補助金の要綱において、事業の成果を図る初期アウトカム指標及び最終アウトカム指標の検証のために必要となる基礎データの提出を行うことを要件化すること等により、成果検証のための情報の収集を可能にする。

## 議論の進捗状況

全事業について初期アウトカム指標及び最終アウトカム指標を設定する方向で検討中。

高齢者人口に対するサ高住の割合を最終アウトカム指標とする方向で検討中。

補助要綱で要件化し公表済み。

## 今後の活用方針

- アウトカム指標を確定し、R5年度以降フォローアップを進める。
- 上記の指標を元に、レビューシートを予算編成で一層活用する。

# 情報システムの整備

令和5年度予算額4,812億円  
(令和4年度予算額4,601億円)

デジタル庁

## 事業の概要

国の行政機関が行う情報システムの整備及び管理に関する行政各部の事業の統括・監理を実施。デジタル庁が各府省と連携し、予算要求段階、執行段階において、プロジェクトの各フェーズに応じたレビューを実施。情報システムについて政府共通の基盤やルールを整備。

## 指摘に至った背景

デジタル庁による情報システムの統括・監理によって、運用等経費の3割削減目標を達成するとともに、国民の利便性や行政効率化等のアウトカムをデータ主導のアプローチで達成する必要。

## 秋のレビュー等における指摘事項

国の情報システム予算の運用等経費の3割削減目標について、ロードマップを構築し、透明性を確保することは、将来を見通した事業評価のために重要。

アウトカム指標については、①国民の利便性向上（使い易さやデジタルでの手続き貫徹率等）、②行政の効率化・平準化や職員の負担緩和（各工程の作業時間、業務時間等）を検討すること。

可能な限りデータを公表するとともに、将来に向けた分析等の利活用を行うこと。また、ドキュメントを整備し、レガシー化やベンダーロックインの防止につなげること。

## 令和5年度予算等への反映

デジタル庁含む各府省は、個別の情報システムに係る業務改革・経費節減等の方針や投資等の取組を具体化した5年間の基本とする「中長期計画」を策定し、公表（令和4年8月～）。

アウトカム目標として、マイナンバーカード等のID普及率やサービス利用者数等を検討中であり、令和5年度を目途に設定する予定。

システムや予算に関するデータを分析して情報システムの整備を推進するとともに、各府省でも当該データの分析・利活用を推進する。また、システムごとのプロジェクト計画書等の作成を徹底。

## 議論の進捗状況

全府省が個別に「中長期計画」を策定し、令和4年度中に公表済み。

引き続き、令和5年度を目途とし、アウトカム目標の設定に向けて検討中。

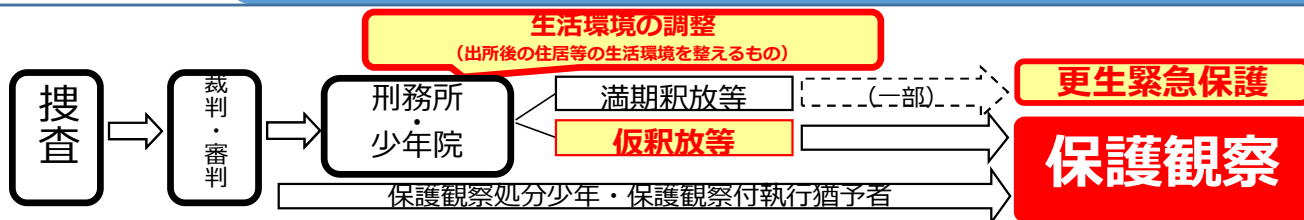
デジタル庁において情報システム整備に係るデータ分析・利活用を試行中、一部府省において試行開始予定。また、全てのシステムについて、プロジェクト計画書の作成を依頼済み。

## 今後の活用方針

- 令和5年度以降、国民の利便性向上や行政の効率化（運用等経費の3割削減目標含む）等のアウトカムの達成状況を測定するなど、データ主導のアプローチで情報システムの整備・運用を推進。
- まずは、デジタル庁が整備・運用するシステムにおいて実施し、順次、各府省に展開。

## 事業の概要

- 「保護観察」とは、犯罪をした人や非行のある少年が健全な社会の一員として更生するよう、実社会の中で保護観察官と保護司が協働して指導監督・補導援護を行うもの。
- 更生保護サポートセンターは、保護司・保護司会が地域の関係機関・団体と連携しながら、地域で更生保護活動を行う拠点であり、保護司の行う処遇活動への支援等を実施するもの。



## 保護観察の実施体制

- 保護観察官は、保護観察対象者への直接的指導や保護司のスーパーバイズ、性犯罪等の専門的処遇プログラム等を実施
- 保護司は、保護観察官が作成した保護観察の実施計画に基づき、面接等を通じて、保護観察対象者に指導助言等を実施

## 秋のレビュー等における指摘事項

保護観察の対象は5種類あり、各々で保護観察の状況等が異なることから、各々の状況について把握し、効果を測定できる仕組み作りを検討すべき。

最終アウトカムについて、出所者の刑事施設への再入所率を指標としているが、保護観察対象の約3割に過ぎない仮釈放者のみを対象とする指標であり、事業全体の効果を表すものでないため、指標の設定を検討すべき。

初期アウトカムについて、更生保護サポートセンターの支援が保護司のニーズを満たしたものとなっているかの満足度調査などを指標として設定することを検討し、保護司への処遇支援の効果検証を行うべき。

## 令和5年度予算等への反映

少年や成人、矯正施設をえているかどうかなど、保護観察の種別ごとに特性等が異なることから、保護観察の種別ごとに効果を測定できるようアウトカム指標の設定を行う等の検討を行う。

保護観察全体の効果を示す観点から、その他の保護観察対象である保護観察処分少年、少年院仮退院者などについても効果を測定できるようアウトカム指標の設定を行う等の検討を行う。

最終アウトカムである保護司の退任者数とのつながりから、保護司に対し、アンケート調査等を行うことで、処遇支援の効果検証が行えるような指標の設定を検討する。

## 議論の進捗状況

保護観察期間中の再犯の状況等を初期アウトカム指標として設定し、その中で保護観察の種別ごとの状況を示すことなどを検討中。

保護観察対象者全般について、保護観察開始後、一定期間経過後の再犯の状況等を最終アウトカム指標として設定することを検討中。

保護司に対するアンケート調査等を行うことを検討しており、その結果を初期アウトカム指標として設定することを検討している。

## 今後の活用方針

上記の指標を基に、より適切かつ効果的な事業となるよう、行政事業レビューシートを予算編成において一層活用する。

## 事業の概要

各市町村及び都道府県が行う高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた取組について、評価指標を設定し、その達成状況（評価指標の総合得点）に応じて、交付金を交付。

## 指摘に至った背景

本事業については、各評価指標の得点と要介護認定率等との相関性は認められないなど評価指標が適切でなく、又、評価指標の数が多いため市町村等の事務負担が過大となっている。

## 秋のレビュー等における指摘事項

地域における要介護度の改善や介護給付の適正化の観点から、事業目的を整理するとともに、事業目的の達成に結びつくインセンティブ付けとして機能する指標を中心に指標を整理すべき。

2つの交付金について、例えば、地域における要介護度の改善と介護給付の適正化という観点から、目的、アウトカムや効果の再整理を行い、重複を排除することなどを検討すべき。

全体として、効果的・効率的にインセンティブを機能させるためには、自治体間の交付額により一層メリハリをつけることが必要。

## 令和5年度予算等への反映

事業の目的に沿って評価指標を整理するとともに、要介護度の改善等のアウトカムにつながる評価指標への重点化を行う方向で見直しを検討。

2つの交付金について、役割分担を明確化した上で、異なる評価指標を設定するなどの重複排除を行う方向で見直しを検討。

アウトカム指標で高い得点を獲得した自治体への配分に重点を置き、自治体間における交付額のメリハリ付けを強化する方向で見直しを検討。

## 議論の進捗状況

本年夏に市町村及び都道府県に評価指標を通知する必要があるため、①要介護度の改善等のアウトカムにつながる評価指標への重点化、②2つの交付金の役割分担の明確化、③自治体間における交付額のメリハリ付けの強化について、具体的な見直し案を検討中。

## 今後の活用方針

- 本年夏までに評価指標等の見直しを実施した上で、令和6年度予算編成において見直しの結果を反映。
- 評価指標に沿って、市町村及び都道府県における高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた取組を促進。
- 年度ごとに各市町村及び都道府県における取組状況を確認するとともに、中期的な観点から取組の効果を分析し、より効果的・効率的な取組とするため、適宜、必要な見直しを実施。

## 事業の概要

- 農業委員及び農地利用最適化推進委員が行う農地利用の最適化活動（担い手の掘り起こし、遊休農地の解消等）に係る報酬等を支援。
- 農地中間管理機構による農地の集積・集約化の推進活動を支援するとともに、機構に対しまとまった農地の貸付けを行った地域に対して協力金を交付。

## 指摘に至った背景

「令和5年度までに全農地の8割を担い手に集積する」との目標（アウトカム）に対し、令和3年度の農地集積率は6割にとどまっているが、目標達成のための各アクティビティの効果指標が設定されておらず、アウトカムが検証可能なものになっていない。

## 秋のレビュー等における指摘事項

- 最終アウトカムについて、足元の取組が検証可能となるよう、閣議決定された目標に限らない形で、担い手への農地の集積・集約化のための指標を検討してはどうか。
- 農地中間管理機構による集積・集約活動について、それぞれのアクティビティごとに効果検証が可能となるよう、途中段階のアウトカム指標を整理すべき。

## 令和5年度予算等への反映

1. 地域集積協力金の交付要件の見直し  
地域でまとまった農地を機構に貸し付ける際に交付する「地域集積協力金」について、貸付面積の一定割合が集約化された農地であることを交付要件に追加。
2. 個々のアクティビティに応じたアウトカム指標の設定  
地域における出し手・受け手の意向把握や目標地図の作成・更新、機構への農地の貸付といったプロセスを踏まえてアクティビティごとに効果の発現経路を整理するとともに、それぞれに応じた途中段階のアウトカム指標を設定し、今後のレビューシートに反映。  
※ 最終アウトカムについては、現在の目標の達成状況を踏まえ、農地の集積・集約化の効果検証に資する定量的な指標を農水省において5年度中に検討。

## 議論の進捗状況

1. 地域集積協力金の交付要件の見直しについては、事業実施要綱を改正の上、令和5年度より施行済み。
2. 個々のアクティビティに応じたアウトカム指標の設定については、外部有識者の意見も踏まえながら、農地の集積・集約化に向けたプロセスを踏まえたアクティビティごとの具体的な指標を検討中。

## 今後の活用方針

2について、令和5年度レビューシートの公表までにアウトカム指標を確定し、令和5年度以降、指標の達成度合いについてフォローアップする。

## 事業の概要

熱中症対策を推進するため、個人の熱中症対策について意識向上のための普及啓発資材の作成等、また、自治体における熱中症対策モデル事業への支援及び横展開のためのガイドラインの作成等を実施。

## 指摘に至った背景

事業開始後10年となる事業であるにもかかわらず、開始当初から指標設定が同内容であり、かつ、ロジックが不明確となっており、EBPM的観点から問題があるため。

## 秋のレビュー等における指摘事項

効果検証について、行動変容を把握できるようなアウトカム指標を設定するとともに、エビデンスに基づく適切な検証方法を設定すべき。

モデル事業について、地域の特性に応じた対処策を評価し、高評価のものを全国に広めていくことが適当。

普及啓発事業について、過去の成功事例や時代の変化を踏まえ、国民が行動変容を起こしやすくするよう、対象・内容・ロジックを検討すべき。

## 令和5年度予算等への反映

高齢者等を対象として、複数年を通じ同じ対象者にアンケート調査を行い、普及啓発等によって熱中症に対する行動変容を行った人の割合をアウトカム指標に設定。

過去に行ったモデル事業の実績から、効果の高い取組を応募要領に盛り込み、自治体への取組を改善し支援するよう見直し。

高齢者等をターゲットとしたメディア等の活用、見守りや声かけ活動を行う団体・NPO法人や、熱中症に関する普及啓発・商品開発を行う民間企業等の民間の力も活用するよう見直し。

## 議論の進捗状況

実際に行動変容をした人の割合を初期アウトカム指標、効果が実証された方策の件数を最終アウトカム指標とする方向で検討中。

対策効果が高かった取組を地域における熱中症対策支援事業の応募要領に取組メニューとして盛り込む方向で検討中。

民間企業等が行う普及啓発活動について環境省が監修等を行うほか、熱中症対策に関するビジネスを行う民間企業と連携した取組を検討中。

## 今後の活用方針

- アウトカム指標を見直し、R5年度以降フォローアップを進め、レビューシートを予算編成で一層活用する。
- 気候変動適応法等の改正後においてもEBPMの観点から事業の実施、検証を行う。



## 放送コンテンツによる地域情報発信力強化事業

令和5年度予算額0.5億円  
(令和4年度予算額1.0億円)

## 事業の概要

日本に対する関心を高めて海外から需要を呼び込むため、地方公共団体や放送事業者等が連携して各地域の魅力を伝える放送コンテンツを制作し、海外の放送局等を通じて発信する取組等を支援。

## 指摘に至った背景

「各地域に需要を呼び込む」という事業目的に対して「放送コンテンツ関連海外売上高」というアウトカムでは効果検証が困難である。また、デジタル社会の進展を踏まえ、時代に即した事業となるよう見直しが必要。

## 秋のレビュー等における指摘事項

効果検証が可能となるようなデータ項目を整理し、統一的に間接補助事業者から収集した上で、各地域にどれだけ需要を呼び込む効果があるかを捉える指標を設定すべき。

個々の事業について、事業内容のみならず採択時の理由・評価や視聴者からの評価等の事業実施の効果を公表するなど、より採択にかかる透明性を確保し、より質の高いコンテンツの応募・採択につなげるべき。

現行は、テレビ放送が主体で、放送事業者が中心となっている。デジタル化が進んでいる中で多様な発信媒体となるよう更なる周知を行い、より効果的な見直しを行うべき。

## 令和5年度予算等への反映

本事業で情報発信を行った番組の視聴者数等の直接的な効果、及び当該国・地域から我が国にもたらされた経済波及効果を含め、適切なアウトカム指標を設定する。

事業募集の際、事業者が制作した映像コンテンツや過去放映時の視聴者評価を評価の参考に用いる等の応募項目の見直しや、採択基準の明確化等によって、より質の高いコンテンツの応募・採択が行われる仕組みを検討する。

他の事業者が確保した放送枠を活用した番組制作を促進する等、放送事業者以外の事業者も参加しやすい仕組みの検討を行う。

## 議論の進捗状況

地域経済への効果をアウトカム指標とする方向で検討中。

応募項目等を定める公募要領の見直しを行う方向で検討中。

情報発信方法の選択肢を周知する等、多様な事業者の参画を促す方向で検討中。

## 今後の活用方針

- アウトカム指標を確定し、R5年度以降フォローアップを進める。
- 上記の指標を元に、レビューシートを予算編成で一層活用する。

## 大型X線検査装置整備等経費

令和5年度予算額28億円  
(令和4年度予算額28億円)

## 事業の概要

コンテナ貨物、自動車やモーターボート、大型機械等、通常のX線検査装置では透過することができない検査対象貨物を破壊することなく、隠匿された不正薬物等の有無を的確かつ迅速に確認するために、大型X線検査装置を活用している。

## 指摘に至った背景

密輸手口が多様化・巧妙化し、海上貨物の取扱いも急増する中、海上貨物の検査を行う大型X線検査装置について、効果検証の在り方を検討する必要があるのではないか。

## 秋のレビュー等における指摘事項

密輸の取締りを行う事業の性質上、情報の開示が難しい部分はあるが、本装置による取締りの効果について不断な検証及び検証結果の反映が重要である。

本事業の目的の一つとして「貿易円滑化の推進」も掲げられているなか、一連の検査時間の効率化など、当該目的への効果についても、他の事業も参考にしつつ、定性的なものも含めたアウトカム指標を設定し適切に検証すべき。

検査の効果的・効率的な実施に当たっては、X線画像の解析を行う職員の資質・ノウハウに加え、AI等の先進技術の活用も有用と考えられることから、海外の事例も研究しつつ、こうした技術の導入を含む検査の質の向上について、不断の取組を行うべき。

## 令和5年度予算等への反映

・現状、機器の活用状況の把握及び分析、新たな機器の情報収集や検証などを踏まえた評価等を実施しているところ。  
・引き続き不断の見直しを行い、効果的・効率的な配備・運用に努める。

・本事業においては、国内外関係機関や事業者等からの情報量に基づく確度と質の高い選定による検査対象貨物の絞り込みが貿易円滑化に寄与すると考えられる。  
・検査対象貨物の絞り込みに活用する情報入手件数を指標設定することについて、有用性を踏まえ検討する。

・引き続き、現地への職員派遣や海外調査の実施等を通じて海外の先進的取組の把握に努める。  
・有用な技術や海外事例があれば導入を検討し、検査の質の向上について不断の取組を行う。

## 議論の進捗状況

現状の取組を継続し、配備場所の変更も含めて不断に検証しているところ。

上記指標の検討に加え、本装置の効果的・効率的な配置が貿易円滑化に寄与することから、全国の外貿コンテナ取扱個数に占める、本装置を配備した港の取扱個数の割合を指標として設定することも含めて検討しているところ。

海外での先進的な取組みを現地で調査を行うなど検査の質の向上に向けて取り組んでいるところ。

## 今後の活用方針

・活用状況の把握や分析等のもと、配備場所変更も視野に入れた配備・運用の議論において活用する。  
・指標等をもとに、レビューシートを予算編成において一層活用する。

## 事業の概要

持続可能な開発目標（SDGs）のゴール3で掲げられている三大感染症（エイズ・結核・マラリア）の終息達成に寄与するため、低・中所得国でこれらの感染症の対策支援を行うグローバルファンドに対して資金供与を実施。

## 指摘に至った背景

我が国の国際機関に対する拠出金の中でも最大級である本拠出金は、事業規模の急拡大に伴い日本の負担額も増大する中で、グローバルファンドが設定した目標年度である令和8年度まで成果実績を把握できない状況となっている。

## 秋のレビュー等における指摘事項

第7次増資期間（2023年から2025年）において、我が国が重視する保健システムの強化が一つの目標として掲げられたが、我が国が目指す保健システムの在り方やその達成時期等の方向性を定め、効果を検証するための適切な成果指標の検討を行うべき。

我が国が重視する分野の取組が当該ファンドにより行われることに加え、日本の顔が見える支援を推進し、当該ファンドにおける資金の効率的な活用、透明な執行を確保するため、議決権の行使に留まらず、諸外国の取組も参考としながら必要な働きかけを行い、実現を目指すべき。

当該ファンドに拠出を始める厚労省と一体となって取り組むべき。

## 令和5年度予算等への反映

指摘を踏まえ、グローバルファンド事務局との間で、保健システム強化の効果を検証するための指標の設定等について協議を行っている。

指摘を踏まえ、グローバルファンド事務局との間で、日本の顔が見える支援の推進等について具体的な協議を開始。また、より透明な執行等につき関連委員会で協議を行っている。より効果的に働きかけを実施するため、こうした進捗・成果を見極めながら段階的に当該ファンドへの拠出を行うこととした。

左記の事項についても厚労省と一体となって協議を行っているほか、理事会においても外務省の理事に加え、厚労省から理事代理を出し連携する等、一層政府一丸で対応している。

## 議論の進捗状況

保健システム強化の効果を検証するための指標の設定につき、本年3月のグローバルファンド事務局長訪日の機会等も活用しつつ事務局と協議を継続している。

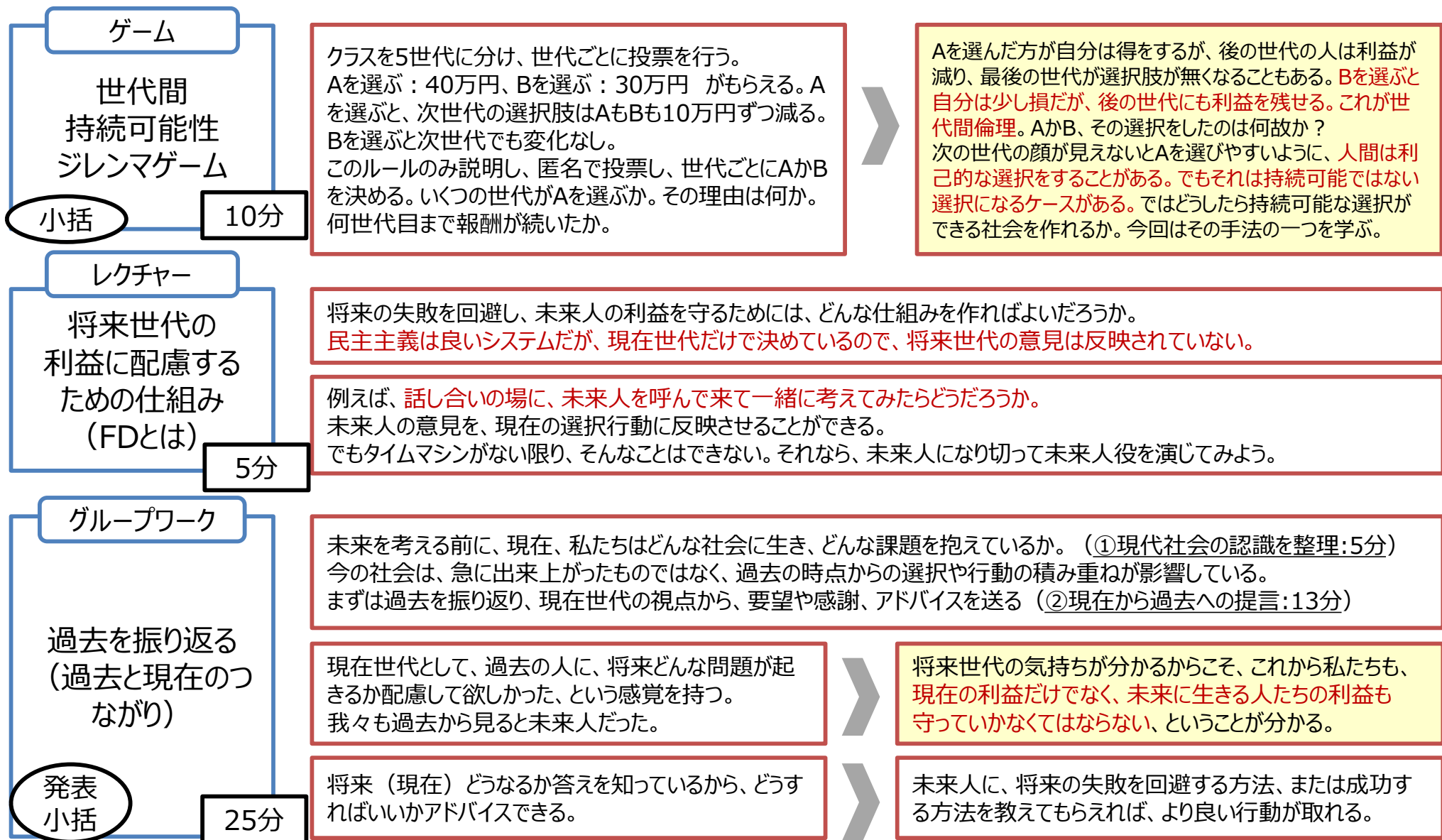
グローバルファンド事務局長訪日の機会等も活用しつつ、政務レベルからを含め継続的に必要な働きかけを実施している。

左記事項についても引き続き厚労省と緊密に連携しており、政府一丸となり対応している。

## 今後の活用方針

●御指摘も活用しつつ、厚労省とともに政府一丸となり、保健システム強化や日本の顔が見える支援の一層の推進等のために、来年度予算概算要求を見据えて明確な進展を得るべく、グローバルファンド事務局との協議を行っていく。また、こうした進捗・成果を見極めながら段階的に当該ファンドへの拠出を行っていく。

### 公共の扉：2時間授業



レクチャー

今日やる事・  
財政について

10分

これから未来に飛んで、未来の社会がどうなっているか見に行く。そして未来人の立場から現在に向けて、「2020年代にどんな政策を、どんな財源を使ってやれば良いか」をアドバイスする。  
**まず、何をテーマに政策を考えるかをグループごとに選ぶ。（少子高齢化、経済成長、ウェルビーイングな社会、環境問題、格差など）途中変更も可**  
※テーマについて、ある程度背景知識（現在の状況、何が問題で、原因は何か）があった方が議論は深まることに留意  
財源を検討する際も、**財政問題の知識がある程度必要となるので、ここでレクチャーする。**

### 2 時間目

グループワーク

未来への  
タイムスリップ

発表

20分

**皆でタイムマシンに乗って2070年に行き、未来人になってみる。（65歳くらい）**  
どんな社会になっている？2023年に気にしていた問題は怎么样了？  
どんな生活をしている？2023年には思ってもみなかったような問題はある？  
聞いている人の目に浮かぶように具体的に、全部「過去形で」話してみる。  
できれば、**こうなっていて欲しいと思う良い未来、こうなったら嫌だと思える悪い未来、**  
両方考える。

【年齢設定について】  
社会人は、今の年齢のままタイムスリップしてもらおう（将来の自分のためではなく、子孫や将来世代への配慮）が、高校生は将来世代そのものなので、将来の自分のための行動が良い。

グループワーク

未来からの  
アドバイス

発表  
小括

25分

悪い未来にならないように、どうするべきだった？  
良い未来は、どうしたら実現できる？  
**具体的に政策を考える。**

**未来視点から逆算して今から行動することが大切。**斬新でイノベティブな発想も生まれやすい。

その政策に必要な**財源を考える**。他の経費を削減・税金等を増やす・国債発行、などを予算の円グラフを元に検討する。

**将来世代の利益/不利益と、現在世代の利益/不利益、両方を踏まえて考える。**  
(世代間倫理)

まとめ

5分

・**世代間倫理とは**。過去を振り返ってみて、その**必要性を体感した**。ではどうしたら世代間倫理を發揮できるか。仕組みと気持ち、両方大事。そのために未来人になったつもりで、未来から現在にアドバイスを送った。漫然と成行きに任せず、**明確に未来像を描くと、そこに向けて今の行動が変わる。**  
・現在の課題を解決するのと、未来像を想像して今何をすべきか考えるのとでは、答えが違ふことがある。  
・有権者としても、社会や経済を担う社会人としても、**私たち一人ひとりの選択・行動が将来の日本や世界を作る。**



# より良い**未来**のために、 今できることを考えよう

April 2023

財務省 Ministry of Finance, JAPAN フューチャーデザイングループ

## より良い未来のために、 今できることを考えよう

わたしたちの子孫は、どんな社会で生きていくのでしょうか。

少子高齢化、環境問題、財政悪化…  
「フューチャーデザイン」とは、わたしたちの社会にある  
さまざまな課題について、  
現在の世代だけでなく、その課題の影響が及ぶ  
「未来の人々」の立場も踏まえて議論しようという取組です。

これまでも将来のことはたくさん考えてきたはずですが、  
つい目の前のことを優先し、将来のための行動は後回しになりがちです。

15

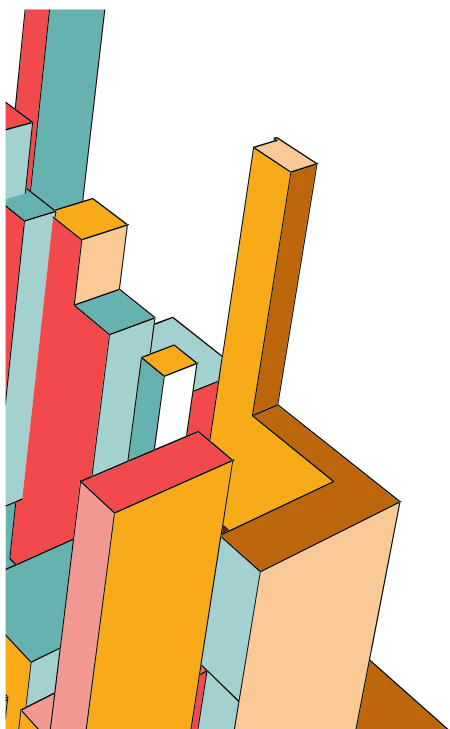
「今」、目の前の暮らしの課題解決が  
一時的な解決で終わらないように。  
より良い暮らしが続いていく社会の実現のために。

「**持続可能な社会**」をつくっていくうえでの課題について、  
真剣に考えていきたいと思っています。

わたしたちの今の選択が  
未来の社会につながっていきます。

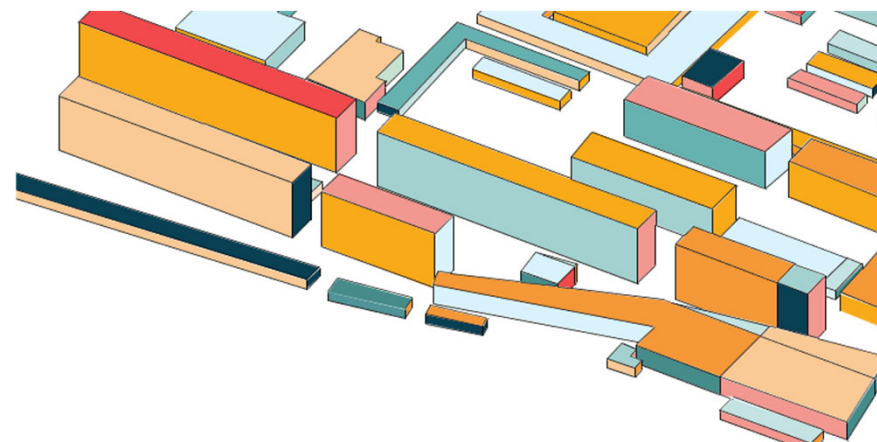
だからこそ、今、どんな選択をすればよいか  
わたしたちが未来の人々になりきって  
議論してみましょう。

16



## フューチャーデザインで 議論したいテーマの例

- 🌀 少子化対策
- 🌀 環境問題
- 🌀 経済・財政
- 🌀 都市と地方のあり方
- 🌀 働き方と暮らし
- 🌀 教育のあり方      など



**未来視点で考えてみよう**



## 「今」の選択は 「未来」につながっている

わたしたちは様々な問題について、どのように対応するか話し合っていて決めています。  
例えば、社会保障の在り方、財政、環境問題など。  
その対応方法を取ることに影響は、わたしたちだけでなく、**未来を生きる人々**にも及びます。  
しかし、未来の人々は、今現在の話し合いには参加することができません。

19XX



2023  
「今」を  
生きている  
わたしたち



20XX  
将来世代



## だからわたしたちが“未来人”になってみよう

「未来の人々」の意見を「今の選択」に反映させるために  
未来にタイムスリップしたつもりで  
**未来の人々が生きる社会**を想像してみましょう。

そして、その社会の実現のために、  
または、将来の失敗を避けるために。

今を生きるわたしたちがどうすれば良いか  
**提言**を送ってみましょう。

「未来の人々のためになることをしたい」  
という気持ちを持って物事を決めると  
私たちの社会は**持続可能**なものになっていきます。

## ワークの流れ

- ワーク 1 「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？
- ワーク 2 「未来」にタイムスリップしたとしたら？
- ワーク 3 - ① 未来から今の人たちに向けてメッセージを送るとしたら？
- ワーク 3 - ② メッセージを具体的な提言にしてみよう

## ワーク 1

### 「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？ — 2023年から1970年への提言 —

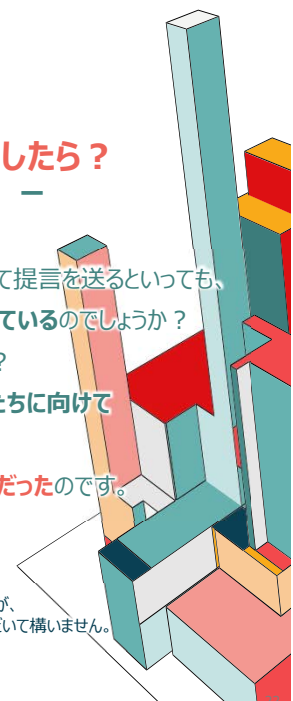
未来にタイムスリップしたつもりで 現在のわたしたちの行動について提言を送るとしても、  
例えば、30年後や50年後の日本や世界はどのくらい変わっているのでしょうか？

どんな風に提言をすれば良いのでしょうか？

その感覚をつかむために、まずは**現在から過去の人たちに向けて**  
同じように提言をしてみましょう。

**過去の人たちにとっては、わたしたちも「未来の人々」だったのです。**

※ ここでは例えば約50年前の1970年代の例を挙げますが、  
ご自身が生まれた頃、就職した頃、など振り返る時代は自由に設定いただいて構いません。



## 1970年代の日本・世界の様子は？①

たとえば・・・

### 経済・為替

- **高度経済成長**（～73年）
- 大量消費、大量廃棄が定着
- 73年にドル/円が変動相場に移行。71年の1ドル360円（固定相場）から、78年には180円前後まで円高が進み、輸出利益が減少
- **第一次石油ショック**でトイレットペーパーの買い占め等が発生
- 日本列島改造政策による土地投機と第一次石油ショックにより、激しいインフレ発生、74年はマイナス成長に
- 70年代後半は**安定成長に移行**（成長率4～5%）

### 政策

- 70歳以上の**老人医療無料化**。医療費の急増、待合室のサロン化等の弊害
- **日本列島改造政策**の推進、後退（日本列島を高速道路・新幹線などの交通網で結び、地方の工業化を促進し、日本列島の均衡ある発展と地域格差解消を図る）

### 財政

- 74年のマイナス成長を受け税収が落ち込む中、福祉の充実や社会資本整備の促進のため歳出が増加
- 75年以降、**赤字国債の発行が常態化**
- 諸外国による内需拡大要請もあり、積極財政を行い、国債発行が急増



23

## 1970年代の日本・世界の様子は？②

たとえば・・・

### 人口構造、出生率

- **第二次ベビーブーム**（71～74年）
- 人口は**1億1千万人**を突破
- 合計特殊出生率は71年に2.16、79年には1.77に低下。**少子化が始まる**
- 1975年の高齢化率は約8%

### 働き方

- 土曜日は半日仕事
- 物価上昇以上に**給与が上昇**
- 70年代前半は専業主婦率が戦後最も高く、後半から**女性の社会進出**が進み始める

### 生活

- 3C（**カラーテレビ・クーラー・車**）の普及
- スーパーマーケットの普及、コンビニ誕生
- 生活程度を下・中の下と感じる人が減り、中程度の層が増加

### 環境

- 経済成長に伴い、**水・大気の汚染**が進み、**公害**が社会問題に。法規制が進み始める。
- **環境庁**が発足
- 最高気温35度以上の猛暑日は70年代平均で年間0.9日（2013～2022年平均は年間3.4日に増加）

### アメリカ・ソ連・中国

- アメリカは景気低迷・インフレに苦しむ
- 米ソは**冷戦下**だがデタント（緊張緩和）で核兵器の軍備を制限
- 中国は社会主義経済から市場経済体制へ移行、改革開放が始まる



24

## 「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？ ① 2023年から1970年への提言

たとえば・・・

〇〇してくれたら、良かったのに！

〇〇という政策によって、日本は▲▲という問題が起こってしまった。

●●すれば（しなければ）この問題は避けられたのではないか。

医療や年金などで主に高齢者に配慮した政策がとられていたが、  
現在では、少子高齢化が進み、社会保障費の増加により  
若者の負担が増加し、財政も悪化している。

例 1 高齢化社会の本格到来に先駆け、しっかりとしたユニバーサルな社会保障制度を  
作ったおかげで、**安心して生きていける社会になった。**

例 2 当時から、**少子化対策を進めたり、社会保障にかかる負担を将来に先送りしない**  
ような仕組みを考えるべきだった。



25

## 「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？ ② 2023年から1970年への提言

たとえば・・・

〇〇してくれて、ありがとう！

1970年に、〇〇に力を入れたおかげで将来▲▲がとても社会の役に立った。  
もっと●●したらより効果が出るだろう。

第一次石油ショックによる混乱の後、日本は**石油の安定的な生産や備蓄、  
省エネ化や石油に替わるエネルギーの開発**に力を入れた。

例 1 そのおかげで、第二次石油ショックでは混乱が抑えられ、比較的短期間で回復するこ  
とができた。

例 2 当時から、再生エネルギーの推進などで石油への依存をもっと軽減しておけば、近頃  
の原油高騰の影響も抑えられただろうし、温暖化対策の意味でも良かっただろう。



26

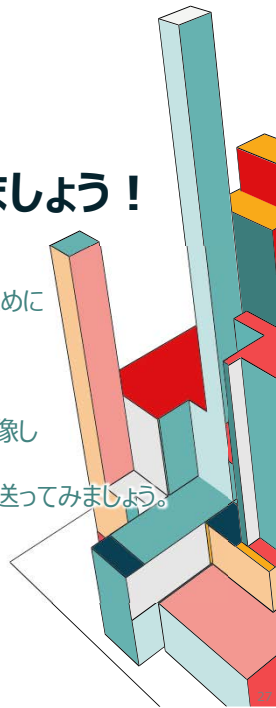
## いよいよ、未来に目を向けてみましょう！

未来の人々の意見を今の選択に反映させるために

未来にタイムスリップしたつもりで、

未来の人々が生きる社会をクリエイティブに想像し

その実現のために今のわたしたちがどうすれば良いか提言を送ってみましょう。



## ワーク2 「未来」にタイムスリップしたら？

－2070年の未来を想像してみよう－

生活や社会を自由に想像してみてください！  
また、なぜそうなるのか、理由も一緒に考えましょう。

(→ 考えたことを巻末のワークシート ( P.22) に書き込んでみましょう！)

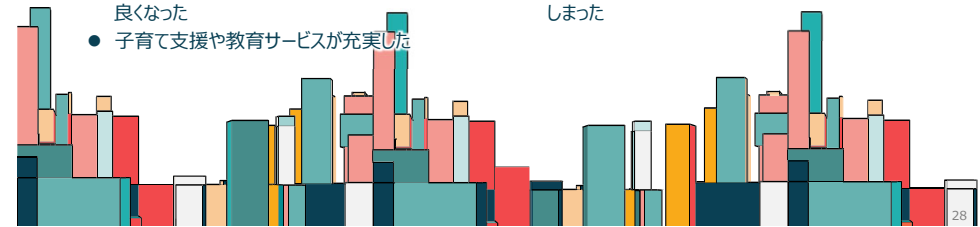
たとえば、少子化や医療・介護分野では・・・

### 少子化が改善し、皆が豊かになった未来

- AIやロボットによる仕事の代替が進んだことで、人間の労働時間は減ったが、給料は増えた
- 性別を問わず、育休を取っても、キャリアに不利になることはなくなった
- リモートワークが普通になり、働き方・住環境が良くなった
- 子育て支援や教育サービスが充実した

### 人手不足と財政悪化が深刻になり、医療・介護サービスは高額な贅沢品となった未来

- 少子化に歯止めがかからなかった
- 重い負担を悲観した若い世代の海外移住が加速
- 日本経済は世界から置いてきぼりになった
- 支え手の減少による財政悪化で社会保障制度が破綻し、医療費や介護費の負担が高額になってしまった



## 未来を想像してみよう①

- ☞ 想像するヒントとして、いくつか現状の課題や未来予測をお示します。
- ☞ 何らかの改善策や出来事によって、予測とは異なる未来もありえます。

たとえば、他の分野では・・・

### 地方

- 地方から大都市への人口移動が収まらない場合、2040年には、約1,800自治体のうち、**523自治体が「消滅可能性(※)」が高く、人口移動が収まる場合でも、243自治体が「消滅可能性(※)」が高いと予測されています。**

※ 20～39歳の女性人口が5割以上減少し、人口規模が1万人未満となることを指す。最近ではテレワークの普及を機に地方移住への関心が高まっています。

(出所) 巻末1参照

### 気候変動

- 現在を超える追加的な対策を取らない場合、21世紀末には以下のような影響が予測されます。
  - 日本の**年平均気温が4.5℃上昇**し、猛暑日が19日間増加します。
  - **豪雨や台風**の発生頻度が増加し、強さも増します。
  - 海面が約0.7メートル上昇し、沿岸部の**浸水被害が増加**します。
- 日本は、**2050年までにカーボンニュートラル**(温室効果ガスの排出実質ゼロ)の実現を目指しています。

(出所) 巻末2参照

### 人口

- 2065年には、日本の**総人口は約8,800万人**(現在の7割)に、特に働く世代は約4,200万人(現在の6割)に減少する一方、高齢者は約3,400万人で現在とそれほど変わらないと予測されています。
- **先進国では一般的に少子化傾向が進みますが、出生率が回復する国も見られます。**

(出所) 巻末3参照

## 未来を想像してみよう②

- ☞ 想像するヒントとして、いくつか現状の課題や未来予測をお示します。
- ☞ 何らかの改善策や出来事によって、予測とは異なる未来もありえます。

たとえば、他の分野では・・・

### 経済・財政

- 2075年まで日本の**平均成長率は0%台**のままとなり、GDPは2050年に世界第6位、2075年に**第12位まで後退**するという予測があります。(中国・インド・米国の7分の1程度)
- 今のままだと、**社会保障費が増大**する中で、適切な負担がなされず、**財政・社会保障制度の持続可能性への懸念**が高まります。

(出所) 巻末4参照

### 格差

- 日本の**相対的貧困率**(世帯の所得が、その国の中央値の半分に満たない状態の割合)は先進国35か国中**7番目**に高いです。(2017年調査)
- 親世代から子世代へと格差が固定化すると、**未来に希望の持てない若者が増加**したり、能力が十分に発揮されないという**社会的な損失**につながります。

(出所) 巻末5参照

### 技術革新

- 2050年までに、以下のような研究が進みます。
  - **アバター**を活用し、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現する研究
  - 人と同等以上の身体能力を持ち、自ら思考・行動し成長する**AIロボット**を開発する研究
  - 超早期に**疾患の予測・予防**ができる社会を実現する研究

(出所) 巻末6参照

### ワーク3-①

個人で考えてみましょう

#### 未来から今の人たちに向けてメッセージを送るとしたら？①

－2070年から2023年への提言－

想像した未来像は、「いつ」「どのような」選択から始まったのでしょうか。

皆さんも未来から現在にメッセージを送ってみましょう！

(→ 考えたことを巻末のワークシート (P.22) に書き込んでみましょう！)

たとえば・・・

○○してくれたら、良かったのに！

○○という政策によって、日本は▲▲という問題が起こってしまった。

●●すれば（しなれば）この問題は避けられるのではないかな。

少子化に歯止めがかからず、重い負担を悲観した若い世代が海外に移住し、日本経済は世界に遅れを取ってしまった。支え手の減少による財政悪化で**社会保障制度が破綻**し、医療費や介護費の負担が高額になってしまった。

例1 雇用や賃金の格差を早く是正し、希望する若者が安心して結婚・子育てできるようにすべきだった。

例2 働き手の減少に対応するため、AIやロボットを活用し人手不足を解消しつつ、そこから生まれる収益を社会保障に活用できる仕組みを構築しておけばよかった。



31

### ワーク3-①

個人で考えてみましょう

#### 未来から今の人たちに向けてメッセージを送るとしたら？②

－2070年から2023年への提言－

想像した未来像は、「いつ」「どのような」選択から始まったのでしょうか。

皆さんも未来から現在にメッセージを送ってみましょう！

(→ 考えたことを巻末のワークシート (P.22) に書き込んでみましょう！)

たとえば・・・

○○してくれて、ありがとう！

2020年代に、○○に力を入れたおかげで将来▲▲がとても社会の役に立った。

もって●●したらより効果が出るだろう。

AIやロボットによる仕事の代替が進んだことで、人間の労働時間が減った一方で所得は増え、育児と仕事の両立が進んだ。さらに子育て支援や教育サービスも充実したので、少子化が改善し、皆が豊かに暮らせるようになった。

例1 AIやロボットの技術革新だけでなく、活用にあたって社会制度が確り出来ていたので、広く人々のワークライフバランスや所得を改善できた。

例2 例1がこどもを持ちやすい土台となり、さらに行政の支援が充実したので少子化を改善することができた。



32

## ワーク3-②

個人で考えてみましょう

### メッセージを具体的な提言にしてみよう - 2070年から2023年への提言 -

先ほど想像した未来像が、良い未来であればそれに近づくために。  
良くない未来であれば、そうならないように。

未来をより良くしていくために。

私たちは今、**具体的に、何をどう変える必要がある**でしょうか。  
また、それは**具体的に、それぞれの主体が何をすれば良い**でしょうか。

(→ 考えたことを巻末のワークシート (P.23) に書き込んでみましょう！)

#### 何をどう変える？



- 国の予算、政策
- 税制
- 社会保障制度
- 働き方
- 教育の在り方

など

#### だれが何をする？



- 政府
- 地方自治体
- 政治家
- 民間企業
- 市民

など



33

グループで考えてみましょう

### 今、わたしたちは何をすべきか - 2070年から2023年への提言 -

未来からの提言をいざ実行しようとする  
現在の世代から**反対意見**や**支障**となる点が出てくるケースもあるかもしれません。

一体どのようなケースでしょうか。

たとえば、今、経済成長のために資源をたくさん使いたいけれど、  
そうすると将来、温暖化が進んでしまう、という状況。

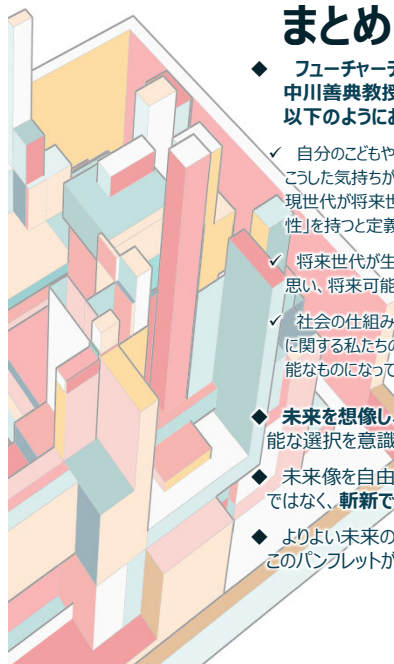
「未来のため」を優先すると、現在を犠牲にしてしまう。  
逆に、現在を優先すると、未来を犠牲にしてしまう。

こういとき、私たちはどのように行動すれば良いでしょうか。  
現在世代と、タイムスリップした未来人で、一緒に話し合ってみましょう。  
もしくは、自分の中で、現在世代と未来人の視点を切り替えながら考えてみてみましょう。



34





## まとめ

- ◆ フューチャーデザインを研究されている西條辰義特任教授（京都先端科学大学）、中川善典教授（上智大学大学院地球環境学研究所、総合地球環境学研究所）は、以下のようにお話をされています。
  - ✓ 自分のことや孫のためになることなら、自分が我慢してでも、やってあげたい、と思うことがあります。こうした気持ちが、親と子の間だけでなく、現世代を将来世代の間にも成り立つとき、すなわち、現世代が将来世代のためなら喜んで我慢をしたいという気持ちを持つとき、現世代は「将来可能性」を持つと定義したいと思います。
  - ✓ 将来世代が生きる社会をクリエイティブに想像する経験を経ると、その実現のために頑張りたいと思ひ、将来可能性が発揮されることが分かってきました。
  - ✓ 社会の仕組みが変われば、私たちの将来可能性が発揮され、「社会がどのようになるのが良いか」に関する私たちの選好も（もしかしたら価値観さえも）変わるでしょう。…私たちの社会は持続可能なものになっていくことが期待できます。
- ◆ 未来を想像し、そこに生きる人たちの立場になってみることで、将来にわたって持続可能な選択を意識しやすくなります。
- ◆ 未来像を自由に想像することによって、「現在抱えている課題を解決する」という考え方ではなく、**斬新でイノベーティブなアイデア**が生まれることがあります。
- ◆ よりよい未来のために、「**今できること**」を考えてみましょう。題材は何でも構いません。このパンフレットが少しでもその助けになれば幸いです。

35

## かきこみワークシート

「未来」にタイムスリップしたとしたら？

(P.14参照)

未来から今の人たちに向けて  
メッセージを送るとしたら？

(P.17, 18参照)

36

## かきこみワークシート

メッセージを具体的な  
提言にしてみよう  
(P.19参照)

自由記入欄 

### (参考文献・ウェブページ)

「未来を想像してみよう」(P.15, 16)

1. 内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」(「選択する未来」委員会会議資料)、「選択する未来2.0」報告参考資料  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html>  
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/future2/index.html>
2. 文部科学省・気象庁(2020)「日本の気候変動2020」  
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>
3. 総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所(2017)「日本の将来推計人口(平成29年4月推計)」(出生中位・死亡中位仮定)、内閣府(2015)「選択する未来 –人口推計から見えてくる未来像–」  
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html>  
[https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp\\_zenkoku2017.asp](https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp)  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/index.html>
4. ゴールドマン・サックス(2022)「2075年への道筋 –世界経済の成長は鈍化、しかし着実に収斂」、内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」(「選択する未来」委員会会議資料)  
<https://www.goldmansachs.com/japan/insights/pages/path-to-2075.html>  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html>
5. OECD(2017)「OECD経済審査報告書」、内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」(「選択する未来」委員会会議資料)  
<https://www.oecd.org/economy/surveys/Japan-2017-OECD-economic-survey-overview-japanese.pdf>  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html>
6. 内閣府(2020)「ムーンショット目標」  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/target.html>

>>> **本パンフレットへのご感想・ご意見**  
ぜひ皆様のご感想・ご意見、お気づきの点などをお聞かせください

ご感想・ご意見入力フォーム



財務省ホームページ



<https://www.mof.go.jp/>  
〒100-8940 東京都千代田区霞が関3-1-1

【第1版】2023.4.28

本パンフレットは、実際にワークに取り組んでいただいた皆さまからのフィードバックも踏まえながら、よりわかりやすく改善できるよう、定期的に見直しをしていく予定です。